施設紹介

小児科医が感じる保育の魅力
～ NPOで保育園を作りました～

特定NPO法人　うてぃーらみや　理事長
名護療育医療センター　小児科医
仲　本　千佳子

１．保育との出会い

「子どもが現在（いま）を幸せに生活し、未来（あす）を生きる力を育てる」。全国保育士会倫理綱領の中にある、私の大好きな言葉です。

大学病院で働きながら第一子を授かった私は、出産直後から他の新米母親同様、育児の非情な実態に落ち込んでいました。自分の体調も、時間も、選択肢も全くコントロール出来ない、人生で初めての事態に非常に困惑していました。そして当たり前の事ですが、私の母の手際の良さに驚愕し、それまでの小児科医としての知識の未熟さに気付かされました。それから私は長女を抱っこして地域の様々な子育て支援の場に赴きました。子育てを支える他の職種の方々がどういう支援をしているのか知りたかったのです。幼児教育の本、保育の本、営業ベースの育児の本、世の中の母親の目に留まる、ありとあらゆる情報を漁り、何としてでも子どもと共にいる時間を楽しめる事を目指しました。小児科医として育児の楽しさを伝えられるようになりたいという思いがあったからです。そうして自分の育児を通してnormal childに興味を持ち、健やかな育ちという事がどういう事なのか、深く考えるようになっていきました。

育休が明け長女が保育所に入りました。集団の場に中々慣れず親子で涙を流しながらの復職でしたが、数ヶ月すると集団の場での長女の姿に驚かされることになりました。あんなに甘えてばかりで、常に私の足にまとわりついていた長女が、自分のカバンに荷物を詰め、ズルズルと引きずって、玄関で靴を履き、先生やお友達に「またね」と笑顔で挨拶したのです。おむつもいつの間にか取れていました。ご飯もこぼさず食べられるようになり、新しく覚えた遊びを私に教えてきました。その発達段階だったとはいえ、その育ちのスピードは目を見張るものがあり、一体保育園の先生は何をしたのか、保育の場で何が起こっているのか、知りたくてたまらなくなり、第２子の産休・育休中に保育士試験を目指し、免許を取得しました。

「にぬふぁ保育園」全景

2．保育の魅力

保育士試験に向けての学びは、小児科医として知っている内容も多かったのですが、保育原理や教育原理、福祉の歴史や法制度、子どもの人権の事など、知らなかったことや改めてしっかり学べた事など、とても楽しい学びでした。「保育所保育指針」は何度も読みました。そこには各発達段階の子ども達の暮らしの中での育ちの見立て、健やかに育ちゆく先を見つめる目、子どもを取り巻く家庭、地域、文化の中に社会的な存在としての一歩を誘う支え、そういった事がきめ細やかに熱量を持って書かれています。

保育の中での学びは、教え込む、外的に伸ばそうと刺激を与えるというものでは無く、その子が持つ伸びゆく内なる力と環境（人、物、場）との相互作用により学んでいくと考えます。特に「遊び」は子どもの主体的な活動であり、活力をもたらし、知的にも精神的にも身体的にも社会的にも大きな学びがあります。子どもにとっては生活の中のお手伝いですら「遊び」になります。アスリートのように一つの運動習得に熱中することもあります。それはトレーニングではなく、その子にとっての「遊び」です。その子が自らそれに取り組む意欲を持ち、その面白さに驚愕しながら夢中になる営みは「遊び」です。保育の場では暮らしのあらゆる所に「遊び」の仕掛けを潜ませていきます。この環境設定は保育の持つ大きな力の一つです。

園庭での水遊び

倉橋惣三という幼児教育者の「育ての心」という本の中に素敵な言葉があります。

「伸ばそうとするばかりでなく、伸びるのを待ってばかりいるのでなく、現に目の前に斯うまで伸びゆくのを驚く心。―それが五月の心であり、教育の心である」

子どもの側にいる保育者はわくわく生き生きと子どもの育ちに目を見張れる、伸びゆく子どもの育ちを邪魔しない、一緒に遊びを楽しめる態度が必要だということだと思います。

そして冒頭で紹介した言葉。

「子どもが現在（いま）を幸せに生活し、未来（あす）を生きる力を育てる」

先ず今、目の前の子どもが安心し幸せに過ごしている事、その上でその先の育ちを考え、その子が驚きを持って世の中に出会えるよう支えていく。それが保育の目指す姿だと理解しています。幼児の今は先ず幸せでなくてはいけません。今は我慢して先の為に頑張る、というのは保育の目指す幼児の姿ではないと思います。今日この子が安心して、湧き上がる意欲を持って、自分の暮らしを作り上げたのか、そこに保育者は常に腐心していらっしゃる事と思います。

子どもの病気という非日常の事態に診察場面で接する事が多い小児科医と違い、子ども達の暮らしそのものを考え支えていく保育というお仕事は、同じ子どもの育ちを支える職業として、とても魅力的な世界でした。

3．保育園設立へ向かって

保育の世界にはまっていった私は、気がつくと沖縄のわらべ歌や自然遊びで子育て支援をしているNPO法人うてぃーらみやの中で、仲間と一緒に子どもの育ちを語り合い、彼らとの活動を楽しんでいるうちに、保育の場で実践したい気持ちが大きくなり、仲間とともに保育園を設立するために奔走しました。土地探し、地元の反対運動、那覇市議会や地元の人たちへの説明、資金繰り、あらゆる法的な手続き。勤務医として世間知らずの私は本当に右往左往の日々で、結局開園に辿り着くまでに６年もか

かってしまいました。沢山の人たちと出会い、協力していただきました。

一番心強かったのは小児科医の先輩である冨名腰先生が仲間になってくださり、園長を引き受けてくれた事です。同じ志で保育という全く新しい世界に先陣を切って飛び込んでくれ、一緒に歩める事は、本当に大きな喜びの一つです。今後特別なニーズのあるお子さんの保育にも大きな幅が持てるのは夢のある事だと思います。

私たちの理念に共感してくださる設計士との出会いも大きな出会いの一つでした。何度も丁寧に私たちの目指したい保育の姿に耳を傾け、その文脈を読み取り、形にしてくださりました。広々としたアマハジに風が通る、季節の空気を肌でしっかりと感じ取れる、素敵な園舎が出来ました。

また、これまでNPOの活動を見ていてくださった人達の中から、ぜひ一緒に保育を作りたいという熱意を持って入職してくれたスタッフもいます。開園までの間に何度も彼らと学び合い、語り合い、皆で夢を持って開園の日を迎えました。

私たちの保育園は毎日の暮らしを中心に、決まった行事や設定保育をなるべく少なくし、子ども達の持つリズムを大切にしながら保育を行っています。大人も子どもも共に暮らしの中で学び合い、育ち合う場となっていければと思っています。まだ開園から１年もたたず、保育者も園児も出会ったばかりで、これから何が生まれてくるのか、とても楽しみです。経営や法人運営にも慣れておらず、恐らく今後も学びながらの歩みになると思いますが、医療の世界から保育の世界にお邪魔させていただき、互いに新しい試みや学びがうまれてくれればと思います。

「にぬふぁ保育園」。「にぬふぁ」とは子の方向。北の方向という意味です。「にぬふぁぶし」は北極星の事です。人生という航海の道標となるような乳幼児期の育ちに寄り添っていければ、という想いを込めました。

４．最後に

私的な育児、仕事として関わっている療育、そして仲間と共に取り組む保育。様々な場で育ちを考える機会がありました。最近はＰＴＡ活動と通して教育委員として学ばせてもらう機会にも恵まれ、教育の世界も少し覗かせていただいています。また沖縄県小児保健協会の「子どもの生活習慣対策委員会」の中で「運動・遊び小委員会」という活動に参加させていただいていますが、その中でも学童や保育の世界の人達との出会いがあり、新しい視点での楽しい学びの刺激があります。小児保健協会で、様々な職種の方々と共に子ども達の為に活動するのは大変貴重なものと感じます。変わりゆく社会の中で「健やかな育ち」について考え、沖縄の子ども達の幸せに取り組む人たちと共にあることは本当に嬉しい事です。まだスタートしたばかりの私達の保育園の活動を紹介する場を設けてくださった、協会の皆様に深謝して稿を終えようと思います。ありがとうございました。

アマハジで遊ぶ子ども達

冨名腰園長と保育職員と共に

引用文献

1）全国保育士会. 全国保育士会倫理綱領、2003.
2）倉橋惣三. 育ての心（上）、フレーベル館、
2008：61.「五月」

病児・病後児保育室「にぬふぁのもり」開所式にて